

平成26年度 魚沼市家庭科部 活動報告

部長 井口 聡子

1 研究主題

- 新学習指導要領の主旨を生かした家庭科授業の工夫・改善
 - ・家庭生活とのつながりを大切にする単元構想や授業の工夫
 - ・実感を伴って理解する学習活動の充実

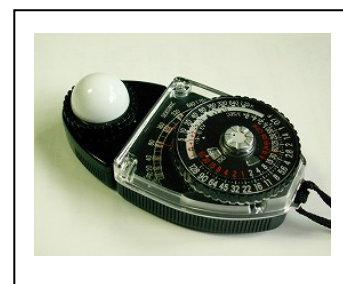
2 研究の概要

(1) 4月16日(水) 家庭科部会総会：小出郷文化会館

(2) 8月 8日(金) 研修会①：魚沼市立小出小学校

○実技講習「照度計の使い方」

- ・照度計を用いて教室内の廊下側、窓側、その他学校内各箇所の計測を行う。
- ・機種による計測の仕方の違いを確かめ、児童が使用する際の留意点を確認する。
- ・データから分かることの交流や授業につなぐ使い方を話し合う。



○共同教材研究

単元名：『工夫しよう 暖かな生活』（第6学年）

内 容：季節に合った暮らし方を、エコや環境に目を向けて考えさせる学習について、2グループに分かれ、指導案を作成した。その後、グループごとに指導計画を発表し、協議した。

3 成果と課題

共同教材研究で、授業づくりのこつや技能を着実に身に付けさせるために心がけていることを確認でき、授業に活かすことができた。

今年度の取組を通し、子どもの実態に応じた指導や家庭の協力を仰ぎ連携していくことの大切さを改めて知ることができた。具体的にカードを使って記録させるなどの改善策が協議されたことも成果である。各校でその後の家庭科の指導や家庭科部の運営に反映できたことと思う。

課題として挙げたのは、次の3点である。

- ①教科の専門性を高める場や機会の充実を図る。
- ②学習したことを活用する場をどう確保するか。授業時間が少なく、十分習熟を図れない点については、家庭での追試（学んだことを実践する）が必要である。
- ③家庭での経験を授業とリンクさせるために、家族の協力を求めていく工夫が必要である。



家庭の状況を把握し、個々の違いを踏まえた上で、それでもなお家庭での経験が児童の活用力を高め自己有用感につながることを伝えていくことが重要であると確認できた。

今後も、課題解決のためにさらに研修を深めていきたい。

